

社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク
2021年度 事業報告書

<実施期間>

2021年4月1日～2022年3月31日

<2021年度の方針>

2008年の設立以来14年目を迎える本年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大によって、さらに深刻化した課題への対応とともに、SDGsの達成や持続可能な成長の実現に向けた本質的な取り組みを促すために、多様な主体による連携を、特に地域において推進できるよう、働きかける。

(1)NPO/NGOが自ら取り組む社会的責任(以下、SR)の普及

NPO/NGOが自らの組織で取り組むSRを推進するため、具体的な取り組みを紹介し共有する機会を広げる。

(2)他セクターとの協働によるSRの普及

さまざまなセクターと連携してSRへの取り組みを促進するべく、NPO/NGOの取り組みや成果を他セクターと共有し、また他セクターの取り組みからも学ぶとともに、他セクターのSRへの取り組みを促すNPO/NGOを育成・支援する。

(3)社会的影響力の大きな課題に対するマルチステークホルダープロセスの推進とアドボカシー(政策提言)の強化

SDGsや社会的孤立をはじめとする社会的な影響が大きな課題に対して、マルチステークホルダープロセスにより社会的責任が果たされることに尽力するとともに、その課題の重要性と具体策を提言するとともに、地球環境や貧困などの国際的な課題へのアプローチにおいてもSRへの配慮がなされること、またその担い手自身が社会的責任を果たすことの必要性を訴える。

上記方針を実現することを目的としつつ、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために、下記のプロジェクトを中心として、フォーラムやセミナーなどは、当面の間はオンライン開催を原則とし、安全確保が見込める時点から対面とオンラインのハイブリッド開催とし、また、会費徴収については、昨年度に引き続き今年度も見合わせることにする。

<2021年度の事業報告>

(1)社会責任に関連する規格の策定・普及(主担当幹事団体: 難民を助ける会)

1.「ISO26000 Stakeholders Global Network(SGN)」のNGOメンバーとして、NNネット代表協議者(堀江)が参加している。同ネットワークの定例オンライン会合に堀江良彰が参加した(4月27日、7月13日、11月16日、2022年2月16日)。また、9月29日開催のNGOセクター主催のイベント「NGO Global Dialogue - Impacts of the pandemic on vulnerable groups」に堀江が登壇した。なお、新型コロナウイルスの影響により、北京で予定されていたSGN主催イベントは中止となった。

2.SRセミナー 第3回 発行から11年を経たISO26000の視点から「ビジネスと人権」を考える

ISO26000の発行から満11年を記念し、国連人権委員会で採択された「ビジネスと人権に関する指導原則」を受けて、ビジネスと人権 市民社会プラットフォーム(BHRC)等の場で日本の行動計画(2020-2025)に関与・提言を続けてこられた方々から、その内容や課題について伺い、企業やNPO/NGOがどのように取り組みを進めるべきかを討論するセミナーを開催し、約20名の方にご参加いただいた。

日時:2021年11月9日(火)18:00~20:00

場所:オンライン

発題および討論:若林秀樹氏((認定特)国際協力NGOセンター(JANIC)常務理事・事務局長)

佐藤暁子氏((認定特)ヒューマンライツ・ナウ事務局次長)

討論:堀江良彰(AAR Japan(認定特)難民を助ける会))

ファシリテーター:川北秀人(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所])

開催報告記事:<https://sr-nn.net/archives/5834>

3.国内の他のステークホルダー(SJN:ステークホルダー・ジャパン・ネットワークメンバー)とのオンラインでの懇談会(2022年3月4日)に堀江が参加し、社会的責任をめぐる内外の動向に関し、他のステークホルダーと意見交換を行った。

4.ハンドブック『これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ』、『策定に関わったNPOが読み解くISO26000』を引き続きホームページを通じて販売した。

(2)公共調達をはじめとする調達における社会責任対応推進(主担当幹事団体:IIHOE)

1.4月1日に参議院議員会館内で開催された立憲民主党のSDGsワーキングチームの会合に、(一社)SDGs市民社会ネットワークの社会的責任ユニットとして、「中央省庁・地方自治体・独立行政法人における社会責任調達」の必要性と、その実現に向けた施策の在り方について、発言(3分間)した。

報告記事:<https://sr-nn.net/archives/5752>

2.SRセミナー 第5回「東京2020オリンピック・パラリンピック『持続可能性』への取り組みの成果と課題」
「持続可能性」をテーマに掲げて開催された東京2020オリンピック・パラリンピック大会について、市民の目線から振り返る機会として、大会組織委員会が公表した「持続可能性大会後報告書」を題材に、同委員会専門委員として提言を続けてこられた方々からお話を伺うとともに、成果や課題について議論した。

日時:2022年3月8日(火)18:00~20:00

開催形式:オンライン(zoomミーティング)

趣旨説明:小堀悠(NNネット幹事、(特)NPOサポートセンター 常務理事・事務局長)

発題「東京2020大会の「持続可能性」の取り組みと「持続可能性大会後報告書」の概要について」

川北秀人(NNネット幹事、IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者)

登壇者からのコメントと討論

崎田裕子氏 ジャーナリスト、環境カウンセラー、(特)持続可能な社会をつくる元気ネット 前理事長

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

街づくり・持続可能性委員会 委員、持続可能性ディスカッショングループ 座長

富田秀実氏 ロイドレジスタージャパン株式会社 代表取締役、ISO20400日本代表エキスパート

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

持続可能な調達ワーキンググループ 委員

進行:川北秀人

参加者数:13名

開催報告:<https://sr-nn.net/archives/5888>

(3)NPO/NGOの社会責任(NSR)への取り組み推進(主担当幹事団体:NPOサポートセンター、IIHOE)

1.SRセミナー 第1回「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がNPO/NGOに与えた影響」

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の長期化によって、社会課題は深刻化し、厳しさを増し、その解決に取り組むNPO/NGOの活動にもさまざまな制約・制限が生じていることから、調査や助成先とのコミュニケーションから見てきた、NPO/NGO・社会起業家を取り巻く状況、その対応や工夫等について、支援団体の方々からご報告いただいた。

日時:2021年7月13日(火)18:00~20:00

開催形式:オンライン(zoomミーティング)

趣旨説明小堀 悠(NNネット幹事、(特)NPOサポートセンター 常務理事・事務局長)

報告「COVID-19が社会起業家に与えた影響」

山内幸治氏(特)ETIC. 理事・ディレクター

報告「COVID-19が地域福祉活動団体に与えた影響」

阿部陽一郎氏((社福)中央共同募金会 理事・事務局長)

報告「休眠預金制度によるCOVID-19対応活動への支援の経過」

大川昌晴氏((般財)日本民間公益活動連携機構 総務部長)

登壇者による討論(進行:川北秀人)

参加者数:約25名

開催報告:<https://sr-nn.net/archives/5790>

2.SRセミナー第4回「NPO/NGOにおけるハラスメントへの対応をどう進めるか？」

パワー・ハラスメントやセクシャル・ハラスメントは、セクターや分野を問わず、予防や対策が求められる問題であり、22年4月からは、中小企業においてもハラスメント防止のために雇用管理上必要な措置を講じることが事業主の義務となることから、制度や事例についてご紹介いただくとともに、NPO/NGOがどのように取り組みを進めるべきかについて議論した。

日時:2022年1月11日(火)18:00~20:00

開催形式:オンライン(zoomミーティング)

趣旨説明:堀江良彰(NNネット幹事、(認定)難民を助ける会(AAR Japan) 理事長)

発題「NPO/NGOにおけるハラスメントへの対応をどう進めるか？」

発題者① 星野美佳氏 社会保険労務士、社労士事務所サステナ

発題者② 穂積武寛氏(認定特)難民を助ける会(AAR Japan)プログラム・マネージャー、
NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)世話人代表

発題者③ 永野間かおり氏(認定特)マドレポニータ 理事/産後セルフケアインストラクター

登壇者討論:星野美佳氏、穂積武寛氏、永野間かおり氏、堀江良彰

進行:川北秀人

参加者数:約20名

開催報告:<https://sr-nn.net/archives/5857>

(4)SDGsと社会的責任(主担当幹事団体:難民を助ける会)

1. SDG市民社会ネットワークの社会的責任ユニットに参加した。政府が発表する「SDGsアクションプラン」に対する市民社会の立場から同ネットワークが作成した「ボトムアップアクション」や国連「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム(HLPF)」で発表される日本の「自発的国別レビュー」(以下、VNR)に合わせて市民社会の視点で作成した「スポットライトレポート」に関し、社会的責任の観点からコメントを加えた。

2.北海道国際交流センター(HIF)主催の「Hakodate MARCHE SDGs Vol.2」(9月26日・27日開催)のステージ企画「パートナーシップで進めるSDGs:NNネット川北秀人さんと語ろう」(26日13:00-14:00)に企画協力し、函館市内などでの取り組み事例紹介に続いて、パートナーシップの意義や課題についてコメントした(会場での聴衆とオンライン参加者 計約50名)。

3.SRセミナー第2回「スポットライトレポート」や「ボトムアップ・アクションプラン」(BAP)からSDGs達成に向けたNPO/NGOの役割を確認する

SDGsの目標達成期限の2030年まで残り10年を切り、もともと内外でその達成が危惧されていたことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、これまで積み上げてきた成果までも後退させる状況が生まれていることから、現在のSDGsをめぐる状況について、NNネットが「社会的責任ユニット」の幹事として参加する、(般社)SDGs市民社会ネットワーク(SDGsジャパン)が市民社会の視点からまとめた「SDGsスポットライトレポート2021」や、日本政府が毎年発行する「SDGsアクションプラン」に対する「ボトムアップ・アクションプラン」(BAP)を題材に、「誰ひとり取り残さない社会」実現のためにNPO/NGOが果たすべき役割について議論した。

日時:2021年10月6日(水) 18:00~20:00

開催形式:オンライン(zoomミーティング)

趣旨説明 堀江良彰(NNネット幹事、(認定特)難民を助ける会 理事長)

発題「日本の自発的国別レビュー(VNR)の主な内容・課題と、ボトムアップ・アクション・プラン(BAP)のポイント」

三輪 敦子 氏 (般社)アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)所長

(般財)SDGs市民社会ネットワーク(SDGsジャパン)共同代表理事

登壇者討論: 三輪敦子氏、堀江良彰

進行:川北秀人

参加者数:約10名

開催報告:<https://sr-nn.net/archives/5823>

2)情報発信・広報事業

1. SRフォーラム、SRセミナーを中心とした情報発信

NNネットのウェブサイト、メーリングリスト、Facebookのページを通じ、上記のSRフォーラム(1回)、SRセミナー(5回)、共催イベント(1回)の広報、報告を行った。

2.ウェブサイトの管理

ウェブサーバーおよびウェブサイトの定期的なバージョンアップ更新などのメンテナンスを実施した。

3. ハンドブックを活用した啓発活動

北海道国際交流センター主催の「SDGsマルシェvol.3」にて、ハンドブック『これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ』策定に関わったNPOが読み解くISO26000』各50冊を頒布した。また、ホームページにて販売を行い、2名の方にご購入いただいた。

3)その他

1.社会的責任に関する円卓会議(以下、SR円卓会議)への参画と推進

同会議に関連する協議や会議は行われなかった。

2021年度 組織運営(事務局業務)報告

<実施期間>

2021年4月1日～2022年3月31日

<業務報告>

1. 会議等の開催

(1)第14回 通常総会の開催

日 時:2021年5月18日(火) 16:00～17:30

場 所:オンライン(zoomミーティング)

議 題:

- ・2020年度事業報告・決算の承認(第1号議案)
- ・2021年度事業計画・予算の承認(第2号議案)

(2)幹事会の開催

- ・第138回幹事会 2021年4月20日(火)14:30～16:00 @zoomミーティング
- ・第139回幹事会 2021年5月18日(火)14:30～16:00 @zoomミーティング
- ・第140回幹事会 2021年7月13日(火)14:30～16:00 @zoomミーティング
- ・第141回幹事会 2021年9月21日(火)14:30～16:00 @zoomミーティング
- ・第142回幹事会 2021年11月9日(火)14:30～16:00 @zoomミーティング
- ・第143回幹事会 2022年1月11日(火)14:30～16:00 @zoomミーティング
- ・第144回幹事会 2022年2月8日(火)14:30～16:00 @zoomミーティング
- ・第145回幹事会 2022年3月8日(火)14:30～16:00 @zoomミーティング

2. 事務局業務の実施

2019年度から事務局業務を下記の5つに分割し、各担当幹事が中心となって実施した。

- ・会員管理(担当:HIF、NPOサポートセンター)
- ・会計(NPOサポートセンター)
- ・広報(NPOサポートセンター、IIHOE)
- ・在庫管理(難民を助ける会)
- ・幹事会および総会準備に係る事務(IIHOE)

2. 会員管理(担当:HIF、NPOサポートセンター)

(1)会員へのフォローアップ

- ・会員の入会、継続、休会対応等の業務をおこなった
- ・会員メーリングリストの運営と管理
- ・会員に対して、幹事会終了後、幹事会議事抄録を配信
(会員MLへの投稿、ウェブサイトへの掲出と併せて、持ち回りの前回の議長団体が担当。)

(2)会員データベース管理

- ・会員情報の整理と管理

3. 会計(担当:NPOサポートセンター)

(1)日常的な会計

- ・管理ルールに従い、入金・支払い・精算等の手続きおよび記録をおこなった。

(2)資金管理と検査

- ・預金などの日常の管理状況を検査する業務をおこなった。
- ・決算書の作成を行い、報告した。
- ・監事による監査をおこなった。

4. 広報(担当:NPOサポートセンター、IIHOE)

(1)ウェブサイトなど管理・運営に関する業務

- ・ウェブサイトなどの管理・運営を行う。
- ・外部からの代表アドレス宛ての問合せに対応する。

5. 在庫管理(担当:難民を助ける会)

(1)ハンドブックの在庫管理

- ・『これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ』、『策定に関わったNPOが読み解くISO26000』の在庫の管理を行う。

6. 幹事会および総会準備に係る事務(担当:IIHOE)

(1)幹事会開催準備、報告

・幹事会開催の日程調整等

(2021年度の幹事会議事次第作成は持ち回りの議長団体が担当し、議事録作成も持ち回りで担当)

(2)総会開催準備

- ・総会開催にかかる準備、資料作成等

以上